

日時：平成 23 年 9 月 8 日（水）13:00～13:50

場所：国立大学法人 千葉大学 けやき会館 大ホール

注：資料配布の記載が無いものは、スライドにて資料を投映。

I. 理事長挨拶：昨年度より新しい理事会役員となりまだ 2 年の任期があります。日本免疫毒性学会の発展のために、ご協力のほどお願いいたします。今年は 3 月 11 日の大震災、津波さらには原発事故による電力不足の問題で、第 18 回学術大会の開催についても若干の危惧があり、先行きが不透明な中でしたが、年会長の上野先生はじめスタッフの皆様のご努力により、開催することができました。本当にありがとうございました。

II. 報告事項

1. 事業報告（案）（資料配布）（澤田）：業務報告の要点は 3 点である。①会費値上げ（平成 22 年度より）によって、会計は安定化してきたが、今後は学会の経費をいかに有効に使うかも議論されなければならない。②平成 23 年 3 月の米国 Society of Toxicology の Annual Meeting が 50 周年記念大会であったので、ブース出展ならびに記念誌へのメッセージ掲載を実施した。③本年度より学会賞・奨励賞を新設し、第 1 回は学会賞：吉田武美先生（昭和大学）、奨励賞は中村亮介先生（国立衛研）に決定した。本総会の後で授賞式と受賞講演を予定している。

2. 事務局報告（大槻）：

①会員動向：会員数はここ 3 年ほどで微増している。【理事会後、事務局事務員に確認し、連絡先不明会員は現行の自動退会規定に合わせて 3 年間は本項目として記載しているとのことである。】現在住所不明会員が 6 名いるが、うち 3 名は年度末で自動退会となる。

②会費納入状況：現行では年度末で約 9 割が納入済みとなり、まずまずの運営であろうかと思われるが、全納に向けて努力を続けたい。

③HP バナー状況：現在 4 社。財務状況が逼迫した時から開始し、その後会費値上げによって、逼迫状況は改善しているが、もう少しバナー提供社が欲しいところである。理事の先生方には是非バナー提供社の紹介をお願いしたい。

3. 学術大会報告

①第 17 回つくば（藤巻）；会計報告を資料に供する。159 名の参加があった。盛会裏に終了したことに感謝する。

また学会本部への返納金も捻出可能であった。

②第 18 回千葉（上野）：シンポジウムとワークショップ（WS）では手島先生、筒井先生にお世話になった。

③第 19 回東京（柳澤）：2012 年 9 月 15-16 日に開催の予定である。大学構内を使用するので週末開催であるがご了解いただきたい。特別講演は本学会の設立時からの歴史を振り返りつつ新たな方向性を示唆していただくような講演と、SOT/ISS からのもの。教育講演は、脂肪肝や疲労症候群における免疫毒性の関連を予定している。シンポジウムは産業医研修会を兼ね、その関係で 1 演題 1 時間で 3 本を予定している。ならびに試験法 WS を実施する予定である。また、第 61 回日本産業衛生学会アレルギー免疫毒性研究会を同時開催とする。

4. 委員会報告

①学術・編集委員会（藤巻）：(i) ニュースレターの発刊は順調に 2 巻を刊行した。(ii) 委員会は昨年の学術大会初日に実施した。提案としてのアンケートの有効利用ならびに学生セッションを学生+若手（30 歳以下）に拡充することについては、今年度の学術大会で採用された。(iii) アンケートは今年度も実施予定である。なお、昨年度の意見から休憩時間を発表の間に多く設けることについても対応していただいた。(iv) 次々年度が 20 回という節目の年なので、記念イベント等を設けることについて学術・編集委員会で討議し、運営委員会で進めていくことになった。

②広報委員会（大槻）：(i) 事務局報告にもあったが、バナー提供社をもう少し募りたい。(ii) HP 上のエッセ

イ欄をもう少し充実させたいので、今後投稿を依頼するので、よろしく願います。(iii) 3月11日の震災に対しては、会員一同としてメッセージをHPトップサイトに掲載した。そのメッセージは、7月末でエッセイ欄に移行している。(iv) Mailing List は、会員と学会が関係している程度には配信している。HPの更新も含めて、もう少し回数を多くできればと思っている。

- ③試験法委員会（筒井）：(i) 学術大会2日目のWS「発達期免疫毒性の評価法」のオーガナイズを行った。(ii) WHO/IPCS の Guidance for Immunotoxicity Risk Assessment for Chemicals のドラフトに対する国内からのパブコメの収集を会員あてに実施し、委員会に参加される手島理事のとりまとめで報告した。そのうち2件は採用された。
- ④国際化委員会（大槻）：中村委員長欠席につきブース出展代表者大槻理事より報告。(i) SOT/ISS との交流の経過報告。2013年第52回 SOT (San Antonio)には、JSIT より高野先生を派遣することとなった。(ii) 第

50回 SOT 記念 Annual Meeting に日本免疫毒性学会としてブース出展とともに記念誌へのメッセージを掲載した。資料に様子を掲示している。(iii) 中村理事は、SOT/ISS の授賞委員会の委員長を担当されている。

5. 学会賞・奨励賞（牧）：資料参考。(i) 第1回平成23年度は、4名の選考委員により厳選に選考。各賞1名の応募者が適格であるとして選考小委員会から藤巻学術・編集委員長へ答申した。受諾の後、澤田理事長による持ち回り理事会に諮り、奨励賞のタイトル変更はあったが、選考小委員会の答申通り決定した。本総会後に授賞式と受賞講演が実施される。
6. その他（大槻）：これまで「慣例として」年会長が総会の議事進行と担当していたが、できれば、明文化されていた方が、対応がしやすいとの意見があり、本理事会にて諸規定を変更。「学術大会規定」に新たに「5」を追加し、「年会長は、学術大会において総会が開かれる場合には、原則として総会の議事進行を行う。」を追加し、改定することとした。

II. 審議事項

1. 事業計画（案）（澤田）：(i) 今年度後期と次年度前期（学術大会まで）を計画とする。(ii) それぞれの委員会にて実施の予定であり、特段の新規事業はなく、継続的事业がほとんどである。(iii) 次々期年会長には坂部理事に内諾を得ており、理事会・総会（兼評議員会）にて承諾を得る予定である。

※事業計画（案）は、満場一致で承認された。

2. 会計

- ①平成22(2010)年度決算（案）（吉田）：資料に沿って説明、報告された。学術大会の戻し金については、2012年度より直接基金会計に入れることとした。
- ②平成22(2010)年度監査報告（小島・高橋）：2名の監事は別々に監査を行ったが、問題なく運用されている旨を報告した。

③平成23(2011)年度修正予算（吉田）：資料に沿って、各項目について説明された。

④平成24(2012)年度暫定予算案（吉田）：資料に基づいて各項目について説明された。

※会計案件は、満場一致で承認された。

3. 人事

①役員人事（澤田）：今年度は、名誉会員推挙、評議員推薦などなく、新規役員は無し。

【意見】HPの役員の冒頭に理事長を置くこと。

②次々期年会長の紹介（澤田）：東海大学医学部基礎医学系生体構造機能学 坂部貢理事に、第20回（2013年）年会長の内諾を得ている。

※満場一致で承認された。

日本免疫毒性学会

平成23年度 総会 兼 評議員会

平成23年9月8日13:00～13:50

国立大学法人千葉大学けやき会館
1階大ホール



終了後、第1回日本免疫毒性学会「学会賞」、「奨励賞」

授賞式ならびに受賞講演が設けられています。

平成22年度日本免疫毒性学会事業報告(案)

平成23年9月8日

1. はじめに
日本免疫毒性学会は、その前身である免疫毒性研究会の期間を含め、発足以来17年が経りました。その間、免疫学と毒性学に係わる異分野の方々の情報収集と意見交換の場として、小規模ではありますが、きわめて学際的な学会として機能して参りました。平成22年度においても、本学会の特色を保ちつつ、新しく発展しつつある研究動向もとり入れ、会員にとってメリットのある学会にすべく、従来からの国内活動はもとより、米国トキシコロジー学会免疫毒性分科会(SOT-ISS)との交流等、国際的な活動の強化にも努めて参りました。また、本年度も、学会の活性化や運営基盤の強化のために活動を行いました。更に、会員の皆様のご理解のもと、平成22年度から学会費の値上げを行うことができましたことを感謝いたします。

2. 平成22年度(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)の事業報告
1) 平成22年度理事会及び総会・評議員会の開催
理事会:平成22年9月8日、つくば市
総会・評議員会:平成22年9月9日、つくば市(詳細は、<http://www.immunotox.org/member/gijiroku20100909.pdf>をご参照ください。)

2) 第17回日本免疫毒性学会学術大会の開催
第17回学術大会を、平成22年9月9日～10日、独立行政法人国立環境研究所大山記念ホール(つくば市)にて、「感受性を考慮した免疫毒性研究の新展開ー環境・遺伝・時間要因」のテーマの下に開催いたしました(年会長:藤巻秀和(国立環境研))。(プログラム等の詳細は、<http://www.immunotox.org/index.html>の「学術大会」のページで、第17回学術大会をご確認ください。)

3) 第18回日本免疫毒性学会学術大会の開催準備
第18回学術大会(平成23年9月8日～9日、千葉市・年会長:上野光一(千葉大学大学院薬学研究院))の開催に向けて、準備を行いました。

4) ImmunoTox Letterの発行
下記2号の刊行を行いました。
15巻第1号(通巻29号、平成22年7月号)、和文版11頁、英文版2頁
15巻第2号(通巻30号、平成22年12月号)、和文版12頁、英文版7頁

3. 平成22年度の事務局及び委員会の活動
以下の活動を行いました。

1) 事務局(総務担当:大槻理事)
・会員の異動、会員数(名誉・一般・学生・賛助各会員及び休会員)の推移と会費納入状況の把握、自動退会(会費未納退会)等に関する事務、
・名簿作成
(会計担当:吉田理事)
・一般会計及び基金会計に関する事務
・予算書・決算書の作成

2) 運営委員会

3回(平成21年4月14日、平成21年7月8日、平成21年12月20日)の会合を東京にて開催し、会務及び学術大会開催準備等の運営が円滑に行われるよう連絡を密にし、学会運営上の諸問題の対処方針を議論しました。

3) 学術・編集委員会(委員長:藤巻理事)
ImmunoTox Letter の刊行を上記のように年2回行い、学会ホームページに掲載し、メーリングリストにてその旨連絡しました。通巻24号より行われている英語版の追加も継続しました。本学会の学術的な充実を図るため、第12回学術大会より実施されているアンケート調査の内容の強化を試み、提出されたご意見の紹介及びそれに対する運営委員会の回答もImmunoTox Letterに掲載しました。また、学会賞等選考小委員会委員長(下記参照)の指名を行い、選考を依頼しました。

4) 広報委員会(委員長:大槻理事)
学会ホームページの定期的な更新を行い、学術大会等に関する情報を追加しました。また、英語サイトの充実にも努めました。バナー広告企業を新たに増やすための検討を行い、各理事には積極的に勧誘を行ってもらうようにしました(平成23年3月で、4社)。

5) 試験法委員会(委員長:筒井理事)
本学会主導の試験法標準化作業の一環として、K1Hを免疫原として用いるラットのT細胞依存性抗体産生試験のプロトコールに基づく共同研究を継続し、第17回学術大会のワークショップで報告しました。
また、WHO/PCSが編集している"Guidance for Immunotoxicity Risk Assessment for Chemicals"のドラフトへの国内からのコメントをとりまとめ、伝達しました。

6) 国際化委員会(委員長:中村理事)
SOT-ISSメンバー(Dr. Gary R. Burselen)の学術大会シンポジウムへの参加は、SOT-ISS(旅費)及び第17回学術大会(滞在費)からの補助によって行われました。また、中村理事は、本年度、米国Society of Toxicology (SOT)-Immunotoxicology Speciality Section (ISS)のCouncilorを務めました。
2011年3月に開催されたSOTは50周年記念に当たり、本学会からは、ブース展示及び記念出版本へのメッセージの掲載を行いました。また、吉田理事は、Dr. Kimberとともに企画した呼吸器感受性に関するワークショップの座長を務めるとともに、発表も行いました。

7) 学会賞・奨励賞の学会賞等選考小委員会(委員長:牧理事)
平成23年度の応募受付を、平成23年1月1日(開始)～平成23年2月28日(締切)の期間に行い、応募書類に基づき、授賞者の選考を行い、その結果、学会賞には吉田武美先生(昭和大学薬学部)、奨励賞には中村亮介先生(国立衛研)を選定しました。

4. 平成22年度会計報告

1) 通常会計
別紙のとおり
2) 基金会計
別紙のとおり(個人的な寄付、学術大会返納金等は通常会計から分離して基金会計として管理しています。)

- I 理事長挨拶
- II 報告事項事業報告
 - 1 事業報告(案)
 - 2 事務局報告
 - ① 会員動向
 - ② 会費納入状況
 - ③ HPバナー状況
 - 3 学術大会報告
 - ① 第17回:つくば
 - ② 第18回:千葉
 - ③ 第19回:東京
 - 4 委員会報告
 - ① 学術・編集委員会
 - ② 広報委員会
 - ③ 試験法委員会
 - ④ 国際化委員会
 - 5 学会賞・奨励賞
 - 6 その他

- III 審議事項
 - 1 事業計画(案)
 - 2 会計
 - ① 平成22(2010)年度決算(案)
 - ② 平成22(2010)年度監査報告
 - ③ 平成23(2011)年度修正予算(案)
 - ④ 平成24(2012)年度暫定予算(案)
 - 3 人事
 - ① 学会役職:名誉会員, 理事, 評議員
 - ② 次々期年会長
 - 4 その他
- IV 次期会長 挨拶
- V 次々期会長 挨拶

2 事務局報告 ① 会員動向 ② 会費納入状況

会 員	2002.4	2003.4	2004.4	2005.4	2006.4	2007.4.16	2008.4.15	2009.4.1	2010.4.1	2011.4.1	2011.7.15	2011.9.1
会員総数	224	245	253	263	255	253	223	232	231	240	248	250
一般会員							238	214	219	219	224	229
学生会員							12	6	7	7	10	13
賛助会員							0	0	1	0	0	0
名誉会員							3	3	5	5	6	6
住所不明による休会扱い							14	2	3	4	6	6
会費納入義務者数 一般会員・学生会員							225/11	212/6	217/7	215/7	218/10	223/13
2010年度 2011.9.1現在												
入会・退会者	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度								
入 会	16	25	25	24								17
退 会	53(36)	15(3)	25(5)	18								4
()内は会費滞納により退会処理した会員数												
2010年度 2011.9.1現在												
役 員	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度								
理 事	21	21	21	22								22
評 議員	48	55	58	49								49
会計監査	2	2	2	2								2
2010年度 2011.9.1現在												
会費納入状況	2007.3.31	2008.3.31	2009.3.31	2010.3.31	2011.3.31							
未納なし	175	197	209	206	198							161
未納あり	75	23	18	21	27							77
合 計	250	220	227	227	225							238

2 事務局報告 ③ HPバナー状況

終了		1	試薬	2008.07-2008.12	2008.6.20	岩井化学薬品株式会社	大久保 貴之	83澤田先生
終了	2008.11月末	継続		2009.01-2009.06				
終了	2009.5月末	継続		2009.07-2009.12				
終了	2009.11月末	継続		2010.01-2010.06				
終了	2010.5月末	継続		2010.07-2010.12				
終了	2010.11月末	継続		2011.01-2011.06				
掲載中	2010.5月末	継続		2011.07-2011.12				
	2011.11月末							
終了		2	機器	2008.11-2009.04	2008.10.3	株式会社 大熊	岡本 和義	270大槻先生
終了	2009.3月末	継続		2009.05-2009.10				
終了	2009.9月末	継続		2009.11-2010.04				
終了	2010.3月末	継続		2010.05-2010.10				
終了	2010.9月末	継続		2010.11-2011.04				
掲載中	2011.3月末	継続		2011.05-2011.10				
	2011.9月末							
終了		6	試薬	2009.05-2009.10	2009.6.13	和光純薬工業株式会社	馬場 啓之	85手島先生
終了	2009.9月末	継続		2009.11-2010.04				
終了	2010.3月末	継続		2010.05-2010.10				
終了	2010.9月末	継続		2010.11-2011.04				
掲載中	2011.3月末	継続		2011.05-2011.10				
	2011.9月末							
終了		8	その他	2009.11-2010.04	2009.10.19	シスコ・カムイ株式会社	五十嵐 真幸	106吉田先生
終了	2010.3月末	継続		2010.05-2010.10				
終了	2010.9月末	継続		2010.11-2011.04				
掲載中	2011.3月末	継続		2011.05-2011.10				
	2011.9月末							

3 学術大会報告 ① 第17回:つくば



費目	金額(円)	備考
収入の部>		
学会本部助成金	600,000	学会事務局より
参加費		参加費計 1,149,000
事前登録参加費		
一般会員(75名)	450,000	6,000 x 75
学生会員(5名)	15,000	3,000 x 5
非会員(16名)	128,000	8,000 x 16
当日参加費		
一般会員(32名)	256,000	8,000 x 32
学生会員(2名)	10,000	5,000 x 2
非会員(29名)	290,000	10,000 x 29
懇親会費		懇親会費計 450,000
事前申し込み (55名)	330,000	6,000 x 55
当日申し込み (15名)	120,000	8,000 x 15
企業協賛費		企業協賛費計 1,530,000
寄付	800,000	16団体(50,000 x 16)
広告	430,000	10団体(表裏紙 100,000 x 1, 一頁 50,000 x 3, 半頁 30,000 x 6)
展示	300,000	5団体(50,000 x 6 小間)
講演要旨集販売	4,000	2,000 x 2冊
銀行預金利息	211	
合計	3,733,211	

② 第18回:千葉



費目	金額(円)	備考
支出の部>		
会場費	252,000	看板、パネル持込
ホームページ作成費	45,465	
運営費	546,258	事前打合せ、会場設営、機器手配など
講師交通・宿泊費等	790,000	海外、国内招待演者関係
学会賞・座長謝礼等	157,055	年会賞、奨励賞、優秀賞、座長記念品など
郵送・運搬費用	86,420	宅配送料金、郵送料
印刷費	491,715	講演要旨集、ポスター、名札など
人件費	307,550	アルバイト、会議代行スタッフ
懇親会費等	431,340	懇親会 70名参加
理事会等経費	155,145	参加者 24名
その他事務用品等	74,464	収入印紙、振込手数料、事務用品
学会本部返納金	395,799	
合計	3,733,211	

第17回日本免疫毒性学会学術大会
年会長 藤巻 秀和

③ 第19回:東京

**第19回
日本免疫毒性学会学術大会**
第61回日本産業衛生学会アレルギー・免疫毒性研究会

「免疫毒性疾患の新しい様相」
年会長 柳澤裕之 (東京慈恵会医科大学環境保健医学講座教授)

平成24年(2012年)9月15日(土)~16日(日)
会場:東京慈恵会医科大学 大学1号館

4 委員会報告

① 学術・編集委員会

1) ImmunoToxLetter
発刊

2010.12.22.通巻第30号 Vol.15. No.2. 発刊 HPに掲載, mailing list にて配信。
2011.6.29.通巻第31号 Vol.16 No.1 発刊 HPに掲載, mailing list にて配信。

目次

第17回日本免疫毒性学会学術大会報告 1
独立行政法人国立環境研究所 藤巻 秀和

第18回日本免疫毒性学会学術大会(予告1) ... 1
千葉大学 上野 光一

第17回大会 年会賞
粒子状化学物質による自然免疫の活性化とII型免疫反応の誘導 2
産業医科大学 黒田悦史、森本泰夫

第17回大会 奨励賞
農業による核内受容体RORα/γを介したIL-17遺伝子発現に及ぼす影響 4
北海道立衛生研究所 小島 弘幸 ほか

第17回大会 学生優秀賞
無機ヒ素曝露によるリンパ球増殖抑制に関わるp130増加のメカニズム 6
筑波大学 岡村 和幸

シリーズ「免疫毒性研究の若い力」8
環境中汚染物質の神経・免疫系への攪乱作用 ... 6
独立行政法人国立環境研究所 Tin Tin Win Shwe

新評議員、新理事より 7

世界の免疫毒性研究者へのインタビュー 11

English pages 13

目次

免疫毒性の課題 1
食品薬品安全センター薬野研究所・研究顧問 小野 宏

第18回日本免疫毒性学会学術大会(予告2) ... 1
千葉大学 上野 光一

非臨床アレルギー試験の現状と課題 3
独立行政法人医薬品医療機器総合機構 薄田 純一

シリーズ「免疫毒性研究の若い力」9
クロマチン研究から免疫毒性へ 8
高知大学 榮徳 勝光

新理事より 9

記念すべき50回SOT Annual Meetingに参加して 11
旭川医科大学医学部健康科学講座 吉田 貴彦

English pages 14

2) 学術大会アンケート実施



今年度も実施しています。
ご協力をお願いします。

1. 第17回日本免疫毒性学会学術大会の発表に関するご感想	3. 日本免疫毒性学会の全体的な活動に関するご感想
大変満足 (8) ほぼ満足 (12) ふつう (3) やや不満 (1) 不満 (0)	大変満足 (4) ほぼ満足 (14) ふつう (6) やや不満 (0) 不満 (0)
2. 第17回日本免疫毒性学会学術大会の運営に関するご感想	4. 学会のホームページやImmuno Tox Letterに関するご感想
大変満足 (9) ほぼ満足 (13) ふつう (0) やや不満 (2) 不満 (0)	大変満足 (5) ほぼ満足 (11) ふつう (7) やや不満 (1) 不満 (0)

5. その他(ご自由にお書きください)

次年度以降の学術大会の企画(シンポジウム・ワークショップ・特別講演など)に関するご提案など

- *ポスター等の発表数が少ない。
- *懇親会の会費が異常に高い。これでは若手が参加できない。
- *医薬品の規制関連、試験法関連のシンポジウム・ワークショップを希望します。
- *15年程前に入会しており(免疫毒性研究会の頃)仕事の関係で脱会し、今年復帰させていただきましたが規模はあまり変わりません。但し発表数などは当時より大きく増加していると感じました。当時は一日で終了する研究会でした。
- * monoclonal antibody製剤のimmunogenicityに関する試験法(予知法を含む)、臨床使用上の問題点を今後も検討して欲しい。
- *学会ホームページで、会員専用で一定期間(学術大会～数ヶ月程)教育講演・特別講演・招聘講演・シンポジウム・ワークショップのスライドを参照できるようにしていただきたい。
- *タイムスケジュールにもう少し余裕があると良いと思いました。
- *最後の講演のように内容の似た発表についてまとめて質疑応答があると良いと思いました。
- *学術のみでなく、技術等を見ることができるといいと思います。
- *学術大会の他に、免疫実験のテクニカルな講習会の開催もあるとうれしいです!!
- *産業連携セッション: 基礎的な研究を疾患の予防などに活かすための議論をもっとしたい。
- *疾患予防法を旨とした影響発現や議論の紛糾するような質疑応答にできるような演題を集められればと思います。
- *口頭発表の内容が多く、討議時間が短くなっているものが多くなってきて。工夫が必要か。
- *シンポジウムの内容は大変充実してきましたが、まとめなり総合討論の時間が必要に思う。発表だけで終わるのはもったいない。
- *学生セッションの所は来年からは年会奨励賞がなくなるので、「若手研究者賞」のような名称にして、学生に限らず年齢制限で広く若手に開放したセッションにしてはどうでしょうか。
- *化粧品等のEUで進められている動物以外の代替法について日本人たちの取り組み(WS?)
- *最近、シンポ×1、WS×1、特別講演と教育講演の様な×2くらい～これに次年度大会大賞賞・奨励賞の受賞講演まで加わると一般演題が追いやられる～でも一般演題に15分! っていうのはkeepしてほしい。ポスターが増えるを得ないならば～ viewingのみでなく、もう少しpresentationも加えるとか～免疫学会とかがやっている1min presentの導入とか～ポスター発表が多くなると思うので、その充実を計るべきでしょうか? 企画物では出来るだけ会員外の～つまり普段聞けない話を聞きたいです～初日の三宅教授のように。

4 委員会報告

② 広報委員会

1) バナー広告: 現在4件, もう少し増やしたいので, ご協力をお願いしたい。

2) エッセイ欄: もう少し充実させたい。

3) Mailing Listの活用: 時々には配信している。さらなる活用を検討したい。

4 委員会報告 ③ 試験法委員会

WHO/IPCSのガイダンスにコメント

2010.12.1

WHO/IPCS 免疫毒性ガイダンス(Harmonized Guidance of Immunotoxicity Risk Assessment)のバリエーションの草案について (日本免疫毒性学会試験法委員会)

1. WHO/IPCS 化学物質に対する免疫毒性リスク評価に関するガイダンス作成の目的

WHO/IPCSは、オランダ国立公衆衛生環境研究所(RIVM)の免疫毒性アレルギー過敏症に関するWHO協力センターを中心に免疫毒性のリスク評価に関して、各国で用いることのできる国際的な標準化されたガイダンスを作成することを目的としている。具体的には、化学物質に対する免疫毒性を、国際的に同意された方法を用いて評価し、これらの評価が適切なリスク管理に用いられることをめざしている。そのために、免疫毒性専門家よりなるワーキンググループを設置し、リスク評価を行う際の範囲を示す作業を行った。

2. ワーキンググループ活動経緯

・2008.2.28-29 WHO/IPCS Scoping meeting for the development of guidance
RIVM センター長である Henk van Loveren 教授を議長に、ヨーロッパ、米国 EPA の免疫毒性専門家を中心に10名がオランダ RIVM に集まりガイダンスのスケープブックが完成した。

・2008.12.1, 2009.2.26 Teleconference

・2009.4.27-29 WHO/IPCS Immunotoxicity drafting group meeting
オランダ RIVM にて、2回目の会合がもたれた。この会合から、日本から手島が会議に加わった。ガイダンスのドラフト案(1-7章)の議論と、それぞれの順に書かれているリスク評価を行うための範囲となる個別事例研究としてのモデル化合物の選定が行われた。ドラフト案(1-7章)は、異なったタイプの免疫毒性が議論されている。1章: 序論; 2章: 背景; 3章: 免疫毒性リスク評価のフレームワーク; 4章: 免疫抑制; 5章: 免疫促進; 6章: 感作性とアレルギー反応; 7章: 自己免疫誘発性で構成された。また、事例研究のためのモデル化合物として、アラチナが 6 章の sensitization の事例として、短が 4 章の immunosuppression の事例として、芳香剤が 6 章の sensitization の事例として、HCB が 5 章の immunostimulation の事例として、水銀が 7 章の autoimmunity の事例として、トリクロロエチレンが 6 章の neontigen の事例として選ばれた。

・2009.10.11 アラチナの事例研究が提出され、事例研究報告の作成に関する専門家を加えた事例研究ワーキングチームが結成された。

3. 今後の予定

ガイダンス案は、2010年11月15日から、2011年1月31日までの間、一般の方からのコメント募集のために公表される予定となりました。ここに、アドレスを記します http://www.who.int/ipcs/topics/immunotoxicity/ipcs_guidance_draft.htm
なお、ピアレビュー等を受ける必要があるため、ガイダンスが最終化されるのは、2011年中旬以降になると見られます。
ちなみに、今回 WHO/IPCS より依頼があったガイダンス(案)に対するコメントは、免疫毒性学会でとりまとめたうえで、WHO/IPCS の方に提出したいと思っています。従って、会員の先生方としては、今年 20 日までに、免疫毒性学会事務局の方に、意見を寄せていただき、試験法委員会の方で、とりまとめたいと思っています。ご協力をお願いします。なお、今後、日本としても身近な化合物を選択して、個別事例研究を行ってゆくことも重要と考えますが、この点にもご意見をいただければと思います。以上、WHO/IPCS 免疫毒性ガイダンス作成に向けた動きの経緯報告とさせていただきます。
(追伸) 2011年10月5日 WHO/IPCS Immunotoxicity drafting group meeting がオランダ RIVM で開催され、ガイダンスが最終化される予定 (2011.8)

WHO/IPCS Harmonization Project
Draft Guidance for Immunotoxicity Risk Assessment for Chemicals

Peer review comments by

Name	Reiko Teshima, Ph.D.
Affiliation	National Institute of Health Sciences of Japan
e-mail	rteshima@nihs.go.jp
fax	+81-3-3707-6950
tel	+81-3-3700-1349

Page, and Line No.	Comment
p3, 7	Could you please consider a brief mention of the immunotoxicity risks which are not contained in the draft version and also would be assessed in the future? For example, pseudoallergy, photosensitivity, multiple chemical sensitivity, proinflammatory potential, and so on.
p130, 13-19	Two non-radioactive modifications to the LLNA test, i.e. LLNA: DA (TG 442 A) ¹⁾ and LLNA: BrU-ELISA (TG 442 B) ²⁾ , were adopted by OECD as the methods for identifying potential skin sensitizing test substances last July. It is preferable to touch the two methods in this paragraph. ¹⁾ http://www.oecd-ilibrary.org/environment/test-no-442a-skin-sensitization_9789264090972-en ²⁾ http://www.oecd-ilibrary.org/environment/test-no-442b-skin-sensitization_9789264090996-en
	This should be done. "OECD Test Guideline 429" should be added after "LLNA" in line 13, p. 130.
	The following text would be appended to line 19, p. 130: "The threshold of an SI of ≥3 for the LLNA method using incorporation of radioactive labeled thymidine is replaced by an SI of ≥1.8 for the non-radioactive LLNA : DA method (OECD Test Guideline 442A) that measures ATP content by non-luminescence as a surrogate of the number of living cells and by an SI of ≥1.6 for the non-radioactive LLNA: BrU-ELISA method (OECD Test Guideline 442B) that measures 5-hydroxy-2-deoxyuridine (BrU) incorporation into replicating DNA by an enzyme-linked immunosorbent assay (ELISA)."
P135, 45	"Of a total of 95 workers" is correct. Please find the abstract of the reference attached below. The figure "111" in line 45, p. 135 should be changed to "95".

4 委員会報告 ④ 国際化委員会

1) SOT/ISS (Society of Toxicology/Immunotoxicology Specialty Section) との交流

Year	Jpn → USA	USA → Jpn
2005		USA → Jpn Dr. Cohen (第12回東京) J.Imunotoxの紹介
2006		Dr.Regal (第13回倉敷) 特別講演
2007		Dr. Dietert (第14回神戸) シンポジウム
2008	47回Seattle 香山先生:JSIT紹介	Dr. Prueett (第15回東京) 招聘講演
以後、正式に契約を交われ、相互に宿泊費負担を開始。JSITからの企画をSOT/ISSの企画として審議、採択、実施を実行。		
2009	48回Baltimore 野原先生:シンポジウム	Dr. Zelkoff (第16回旭川) シンポジウム
2010	49回Salt Lake City 大槻:シンポジウム	Dr.Burleson (第17回つくば) シンポジウム
2011	50回Washington D.C. 吉田先生:ワークショップ ブース出展	Dr.Ladics (第18回千葉) シンポジウム
2012	51回San Fransisco 手島先生:シンポジウム	第19回東京
2013	52回San Antonio 高野先生	第20回

2) 2011年3月: SOT50周年記念大会に祝福の意味を込めてブース出展(ポスター会場にて展示)



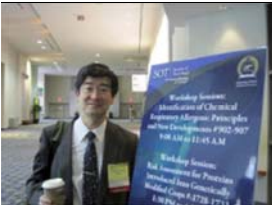
配布物品

- ① JSITロゴ入りボールペン
- ② JSITロゴ入り手裏剣型強力バクネット

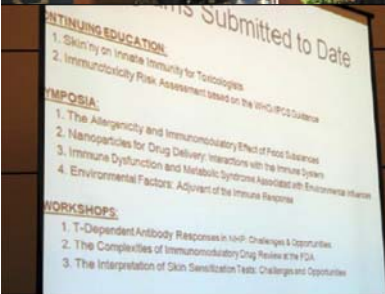


③ 自作JSIT主題歌CD: ドネーションを若干頂戴する。

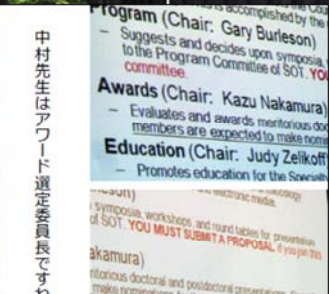




5. Wrok-shop
Dr. Yoshida & Dr. Kimber



2012年の企画候補では、シンポジウムで手島先生提案の食物アレルギーが一番トップです。



中村先生はアワード選定委員長です！



川崎衛生学：熊谷先生がHESI (Health and Environmental Science Institute)Immunotoxicology Young Investigator Travel Award受賞

5 学会賞・奨励賞

タイトル：免疫学的機序に基づく薬物代謝酵素及びストレス応答酵素系の発現調節

候補者氏名 (所属)：吉田武美 (昭和大学薬学部)

推薦者氏名 (所属)：堀井郁夫 (Pfizer, Drug Safety Research & Development)

タイトル：培養細胞を用いた新規アレルギー試験法の開発ならびに化学物質等の発達期免疫影響に関する研究

候補者氏名 (所属)：中村亮介 (国立医薬品食品衛生研究所代謝生化学部)

推薦者氏名 (所属)：手島玲子 (国立医薬品食品衛生研究所代謝生化学部)

学会賞・奨励賞

第1回 (平成23年度) 募集

応募期間：2011年1月1日から同年2月28日、推薦用紙等をHPに掲載

3月に学術・編集委員会内の学会賞・奨励賞選考小委員会(牧理事委員長)にて審議の上、藤巻学術編集委員長の承認後に、澤田理事長による持ち回り理事会が開催された。その結果は、2011.4.13.運営委員会にて開示され、奨励賞のタイトルについて、奨励賞という性格上、応募タイトルより研究の具体性が想定できるタイトルへの変更を望む意見があった。推薦者ならびに候補者に連絡後、改訂タイトル「子供の免疫に関してアレルギー並びに甲状腺機能影響に着目した試験法に関する研究」にて受賞を決定した。

諸規定 改定

旧

【学術大会規定】

1. 学術大会を、1年に1回以上開催する。
2. 学術大会の会計は特別会計とし、通常会計と独立させ、理事会において決算報告の承認を得る。
3. 学術大会の参加費は、年会長が提案し、運営委員会により承認される。
4. 学術大会における一般演題の発表者は、会員に限る。

新

【学術大会規定】

1. 学術大会を、1年に1回以上開催する。
2. 学術大会の会計は特別会計とし、通常会計と独立させ、理事会において決算報告の承認を得る。
3. 学術大会の参加費は、年会長が提案し、運営委員会により承認される。
4. 学術大会における一般演題の発表者は、会員に限る。
5. 年会長は、学術総会と同時に総会が設けられた場合には、総会の議事進行を実施する。

日本免疫毒性学会事業計画 (平成23年度後期・平成24年度前期) (案)

平成23年9月8日

1. はじめに
日本免疫毒性学会は、その前身である免疫毒性研究会の期間を含め、発足以来17年が経ちました。その間、免疫学と毒性学に係わる異分野の方々の情報収集と意見交換の場として、小規模ではありますが、きわめて学際的な学会として機能して参りました。今後とも、本学会の特色を保ちつつ、新しく発展しつつある研究動向も積極的にとりいれて、会員にとってメリットのある学会として存続することが求められています。そのためには、学会の運営基盤の強化のために国内の学術活動のより一層の充実を図る必要があると考えます。また、本学会の国際化のため、引き続き米国トキシコロジー学会免疫毒性分科会 (SOT-ISS) 等との交流も深めて行きたいと思います。
本学会の事業計画は、例年、秋期の総会による承認を受けて始まることから、本事業計画は、概ね平成23年度の総会当日から平成24年度の総会前日に亘る期間 (平成23年度後期及び平成24年度前期) を対象としています。なお、事業報告と会計上の予算は、通常の年度 (4月から翌年3月) の期間で行っています。また、補充役員等の通常任期に関しましては、10月1日から活動開始とすることにいたします。
2. 事業計画 (平成23年9月9日から平成24年度総会前日まで)
1) 平成23年度理事会・総会・評議員会の開催
理事会：平成23年9月7日、千葉市
総会・評議員会：平成23年9月8日、千葉市
2) 第18回日本免疫毒性学会学術大会の開催
第18回学術大会を、平成23年9月8日～9日、千葉市にて開催しました。(年会長：上野光一 (千葉大学・薬))。
- 3) 第19回日本免疫毒性学会学術大会の開催準備
平成24年度 (平成24年秋、東京都、年会長：柳澤裕之 (慈恵医大)) の円滑な運営のための準備を行います。
- 4) 学会役員などの改選
必要に応じて、平成24年度後期 (10月1日付け) 以降の評議員及び理事の補充を行い、総会で承認を受けます。
- 5) 平成24年度理事会の開催
平成24年秋、東京都 (予定)
- 6) ImmunoTox Letterの発行
既に16巻第1号 (通巻31号、平成23年6月号) は既刊となっておりますが、さらに下記の2号の刊行を予定しています。
16巻第2号 (通巻32号、平成23年12月号)
17巻第1号 (通巻33号、平成24年6月号)
- 7) 学会賞及び奨励賞の選考
平成24年度学会賞及び奨励賞の応募を行い、学会賞等選考小委員会において授賞者の選考を行います。

- 8) 第20回日本免疫毒性学会学術大会の開催地の決定
第20回日本免疫毒性学会学術大会 (平成25年秋) の年会長 (予定：坂部貢 (北里大学)) 及び開催地 (予定：東京) に関して総会の了承を得ます。
3. 事務局及び委員会の活動
以下の活動を予定しています。
1) 事務局 (総務)
・会員の異動、会員 (名譽・一般・学生・賛助各会員十休会員) 数の推移と会費納入状況の把握、自動退会 (会費未納退会を整理) 等の事務
・名簿作成 (会計)
・一般会計及び基金会計に関する事務
・決算書及び予算書の作成
2) 運営委員会
平成23年度前期に既に2回 (平成23年4月13日、平成23年7月26日) 開催していますが、さらに数回の会合を開催し、会務、学術大会等に関して運営が円滑に行われるよう、連絡を密にするように努めます。
3) 学術・編集委員会
上述のImmunoTox Letterの編集・発行を2回行い、学会ホームページに掲載し、電子メールにて周知を図ることを予定しています。英語版の追加も継続して行います。また、学会賞及び奨励賞の選考のため、学会賞等選考小委員会委員長を指名し、授賞候補者の選考を依頼します。
4) 広報委員会
継続して、学会ホームページの定期的な更新を行い、英語サイトの充実にも努めます。パナール企業を新たに増やすため、積極的な勧誘を行います。
5) 試験法委員会
本学会内での免疫毒性試験法に関する議論を深める目的で、学術大会ワークショップのテーマとして、試験法を中心に企画します。第18回学術大会では、発達期の免疫毒性評価法に関するディスカッションを予定しています。
6) 国際化委員会
米国トキシコロジー学会の免疫毒性セクション (SOT-ISS) との交流に関して、今後とも積極的に取り組んでいく予定です。
4. 予算
1) 平成23年度通常会計補正予算 (平成23年4月1日～平成24年3月31日)
別紙のとおり
2) 平成24年度暫定予算 (平成24年4月1日～平成25年3月31日)
別紙のとおり
3) 基金会計
別紙のとおり。継続して、学術大会返納金や個人的な寄付等を、通常会計から分離して別途会計として管理し、昨年度新しく設けられた学会賞等の副賞に充当すると共に、通常会計では対応不可能な、しかし予算措置を必要とする案件に備えます。

日本免疫毒性学会 平成22年度(2010年度) 会計報告(案)

一般会計

(単位円)

収入			
科目	補正予算	決算	備考
前年度(2009年度)繰越金	662,065	662,065	
H22年度(2010年度)会費	1,912,000	1,770,000	内訳(202×8千、過去年度18×6千、過払3×8千+1×6千、学生8×2千)
ホームページ・バナー広告	330,000	240,000	4社×2期×3万円
第17回学術大会(つくば)戻し		394,959	
雑収入	1,000	283	銀行預金利息
収入合計	2,905,065	3,067,307	

支出			
科目	補正予算	決算	備考
第18回学術大会(千葉)運営	600,000	600,000	
第50回SOT年会派遣助成	100,000	100,000	SOT(ワシントンDC)吉田
基金会計へ振替	344,571	344,571	第16回学術大会戻し金(旭川)
会議費	300,000	166,960	会議費(委員交通費)
通信費	100,000	77,134	切手・葉書、宅配便、電話
News Letter 製作費	150,000	142,800	第15巻、1、2号
事務費	250,000	178,449	文具、振込料金、事務局旅費、アルバイト代等
ホームページ維持費	300,000	251,422	
第50回SOT出展・記念誌掲載料		326,047	ブース出展料・50周年記念誌掲載料・ブースパッケージ・電源・ポスター・記念品*
予備費	760,494	879,924	次年度(2011年度)への繰越
支出合計	2,905,065	3,067,307	

基金会計

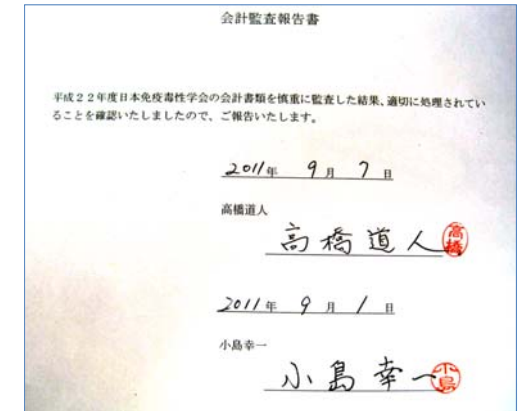
収入			
科目	予算	決算	備考
前年度(2009年度)繰越金	573,530	573,530	
通常会計より	344,571	344,571	第16回学術大会戻し金
雑収入	200	240	銀行預金利息(定期預金)
収入合計	918,301	918,341	内) 普通預金:17,541円 定期預金:900,800円 (70万円普通預金口座から移動)

支出			
科目	予算	決算	備考
予備費	918,301	918,341	次年度(2011年度)への繰越
支出合計	918,301	918,341	

2 会計 ① 平成22(2010)年度決算(案)

2 会計 ① 平成22(2010)年度決算(案) ② 平成22(2010)年度監査報告 (50th SOT分)

* 第50回SOT出展関連費用内		
		\$
ブース出展料	47,225	550.00
50周年記念誌掲載料	76,577	900.00
ブースパッケージ料金	32,532	384.78
ブース電源料	9,408	111.00
布ポスター制作代金	49,188	
記念品・CD代金	118,150	
寄付	△7,033	△72.85
	326,047	



日本免疫毒性学会 平成23年度(2011年度) 修正予算案

収入			
科目	暫定予算	修正予算	備考
前年度(2010年度)繰越金	760,494	879,924	
H23年度(2011年度)会費	1,912,000	1,820,000	内訳(一般会員会費納入義務者数238名(一般224名、8,000円、学生14名、2,000円)、2011年9月1日現在)
ホームページ・バナー広告	300,000	240,000	2010年実績:240,000円
SOT-ISS学会負担金		80,745	\$965.80
雑収入	1,000	1,000	銀行預金利息2010年度実績 283円
収入合計	2,973,494	3,021,669	

支出			
科目	暫定予算	修正予算	備考
第18回学術大会(東京)運営費	600,000	600,000	慈恵医科大学
第51回SOT年会派遣助成	100,000	100,000	2012年3月 サンフランシスコ(手島)
会議費	300,000	200,000	会議費(委員交通費、2010年度実績 166,960円)
通信費	100,000	100,000	切手・葉書、宅配便、電話(2009年実績78,596円)
News Letter 製作費	150,000	150,000	2号分(2010年実績142,800円)
事務費	250,000	250,000	文具、振込料金、事務局旅費、アルバイト代等
ホームページ維持費	300,000	300,000	2009年実績 245,070円
基金会計へ振替		394,959	第17回学術大会戻し金(つくば)
予備費	1,173,494	926,710	次年度(2012年度)への繰越見込み
支出合計	2,973,494	3,021,669	

基金会計

収入			
科目	予算	修正予算	備考
前年度(2010年度)繰越金	918,341	918,341	内) 普通預金:17,541円 定期預金:900,800円
通常会計より振替		394,959	第17回学術大会戻し金
雑収入	200	200	銀行預金利息 利息は満期日(9月19日)
収入合計	918,541	1,313,500	

支出			
科目	予算	修正予算	備考
学会賞・奨励賞 副賞	110,000	80,000	学会賞:5万円、奨励賞:3万円
予備費	808,541	1,233,500	次年度(2012年度)への繰越見込み
支出合計	918,541	1,313,500	

2 会計 ③ 平成23(2011)年度修正予算(案)

日本免疫毒性学会 平成24年度(2012年度) 暫定予算案

収入		
科目	暫定予算	備考
前年度(2011年度)繰越金見込み	926,710	
H24年度(2012年度)会費	1,820,000	内訳(一般会員会費納入義務者数238名(一般224名、8,000円、学生14名、2,000円)、2011年9月1日現在)
ホームページ・バナー広告	240,000	2010年実績:240,000円
雑収入	300	銀行預金利息2010年度実績 283円
収入合計	2,987,010	

支出		
科目	暫定予算	備考
第20回学術大会(東京)運営費	600,000	
第52回SOT年会派遣助成	100,000	2013年3月(サンアントニオ)テーマ採用の場合(高野)
会議費	200,000	会議費(委員交通費、2010年度実績 166,960円)
通信費	100,000	切手・葉書、宅配便、電話(2010年実績 77,134円)
News Letter 製作費	150,000	2号分(2010年実績142,800円)
事務費	250,000	文具、振込料金、事務局旅費、アルバイト代等
ホームページ維持費	300,000	2010年実績 251,422円
予備費	1,287,010	次年度(2013年度)への繰越見込み
支出合計	2,987,010	

基金会計

収入		
科目	予算	備考
前年度(2011年度)繰越金見込み	1,233,500	
雑収入	200	
収入合計	1,233,700	

支出		
科目	予算	備考
学会賞・奨励賞 副賞	110,000	学会賞(5万円、1名以内)、奨励賞(3万円、2名以内)
予備費	1,123,700	次年度(2013年度)への繰越見込み
支出合計	1,233,700	

2 会計 ④ 平成24(2012)年度暫定予算(案)

3 人事

① 学会役職: 名誉会員, 理事, 評議員

今年度は新たな推薦は無。

現在の理事・評議員の任期: 2010.10.1.～2013.9.30.

② 次々期年会長

坂部 貢 理事

東海大学医学部基礎医学系生体構造機能学